

# 届け 世界の果てまでも

令和2年12月 4日

No. 51

文責 校長 飯久保一男

## 「甘い」こと・「甘やかす」こと

12月より、また、タイトルをマイナーチェンジしました。  
日本第1位の高峰 富士山!!



以前にも少し書きましたが、今号では、子どもにものを買って与えることについて考えてみます。

☆クリスマスには、親からのプレゼントを贈る家庭

☆お正月に、お年玉としてプレゼントを買って与える家庭 など

これからの時期は、子どもへのプレゼントを考える家庭もあると思います。

子どもから「〇〇がほしいんだけど」とリクエストされることもあるのではないのでしょうか。そんなとき、子どもが欲しいというものをそのまま受け入れて買って与えることは「甘やかす」ことにならないかと不安になる場合もあるかもしれません。

子どもの気持ちを受け入れて、その望みを聞くことは、「甘い」ことではありますが「甘やかす」ことではありません。逆に、それに親の要求を乗せて、子どもの望むことを聞いてやることのほうが「甘やかす」ことにつながる場合があります。子どもの要求が実現するという意味では同じことですが、子どもの感じ方が違うのです。

たとえば、毎年クリスマスには何かをプレゼントしている家庭で、子どもからクリスマスに〇〇が欲しいと要求があったときの母親の対応です。

母親A 「前からずっと楽しみにしてたものね。じゃあ、今度の土曜日に一緒に買いに行こうか。」

母親B 「今度の算数のテストで100点とってごらん。100点とれたら買ってあげる。」

母親Aの子どもは、欲しい気持ちをそのまま受け入れてもらえたと感じると思いますが、母親Bの子どもは「結局、お母さんは自分の思ったようにならないと受け入れてくれないんだ」と、満たされない感じ方になってしまう可能性があります。子どもから何かを欲しいと言われたときに、見返りの条件をつけると、要求がかなったとしても子どもは心理的に満たされないことが多く、その論理を逆手にとって、次には要求がエスカレートしていくことさえあります。極端な例を考えますと

「じゃあ今度、算数と国語で100点とったら、スマホ買って。」

「高校に合格したら、バイク買って。」

「大学に合格したら、車を買ってよ。」

「就職できたら、マンション買ってよね。」

こんなことにつながりかねません。

また、我慢させたほうが「しつけ」になるから、子どもが欲しがっても、最低3カ月は待たせることにしているなどという与え方もあるようです。これは子どもにしてみると、ただ単に、じらされているとしか思えずに、なぜ今ではダメなのかという理由もきっと満足できないのではないのでしょうか。

つまり、「甘い」対応ですが、どうせ買ってやるのであれば、つまらない条件などつけずに喜んで買ってあげた方がいいということになります。それによって、子どもは自分の気持ちを受け入れてもらった満足感と、自分の要求がかなった喜びを二重に味わうことができるのです。



だからといって、**何でも受け入れればよいということではありません**。何でも自分の思うようになる環境で成長してしまうと、ちょっとでも思うようにならないと「キレ」て、自分の責任は棚にあげ、まわりを責める、手のつけられないわがままな人間になってしまいます。

以前にこの紙面で紹介した、ジャン・ジャック・ルソーの

子どもを不幸にする一番確実な方法は、  
いつでも、なんでも手に入れられるようにしてやることである。

という言葉通りの親になってしまいます。かなえられない要求には「それはできない」でいいのです。ただのわがままに対しても「それはできない」でいいのです。泣こうがわめこうが「できないことはできない」という譲らない姿勢が大切です。あまりに大騒ぎするので、とうとう根負けし、子どもの要求を受け入れてしまうと、次回からは自分の要求を通すために、もっと大騒ぎをするようになり、手がつけられなくなっていきます。

子どもにとって要求を引っ込めることは、親に対する大サービスです。我慢できたときには大いに認めてあげることが大切です。「よく我慢できたね、お母さんはうれしいな。」と、**Iメッセージ**を伝え、子どもの気持ちを埋め合わせ、ねぎらう態度をとることで、子どもの我慢する力を育てることになると思います。

親が喜ぶことは、子どもにとっても、とてもうれしいことなのです。



俺んち母子家庭で貧乏だったから、ファミコン買ってもらえなかった。  
持っているヤツが、すっげーうらやましかった。  
俺が小6のときにクラスのお金が無くなったときなんて  
ファミコン持ってない奴があやしいなんて、真っ先に疑われたこともあった。

「貧乏の家になんか生まれてこなきゃよかった！」って悪態ついたときの母の悲しそうな目。  
今でも忘れないなあ…。

それでも、どうしても欲しくって、中学のときに新聞配達をして金を貯めた。  
ようやく買えるだけ金が貯まって、ゲーム売り場の前まで行ったけど、買うのをやめた。  
そのかわりに小3の妹にアシックスのジャージを買ってやった。  
いままで俺のお下がりを折って着ていたから。  
母にはハンドクリーム買ってやった。  
いっつも手が荒れてたから。

去年、俺は結婚したんだけど、  
結婚式前日に、  
母に大事そうにとってあった錆びたハンドクリームの缶を見せられた。  
泣いたね。  
初めて言ったよ「生んでくれてありがとう」って。



<涙がでるほど綺麗でいい話>より